



まほろん通信

VOL. 56

(平成 27 年 7 月 1 日発行)
福島県文化財センター白河館
〒961-0835
福島県白河市白坂一里段 86
TEL 0248-21-0700 (代)
FAX 0248-21-1075
ホームページ



＜泉崎村立泉崎第二小学校での様子＞

平成 27 年度の「おでかけまほろん」

福島県文化財センター白河館(まほろん)は、平成 13(2001)年 7 月、白河市に開館しました。以来 14 年、多くのお客様にご利用いただいておりますが、広い福島県の南端にまほろんが位置するため、お住まいの地域によっては、ご来館が難しいという声もお聞きしております。

そのような方々にぜひお薦めしたいのが、まほろんの学芸員が皆さまのお住まいの地域に出向いて、様々な体験学習を提供する「おでかけまほろん」と「出前講座」です。

このうち、「おでかけまほろん」は小中学校向けのプログラムで、学校の先生と共同で実施します。たとえば、縄文時代についての授業に併せて、まほろんに収蔵されている本物の縄文土器をご覧いただきながら、その特徴や技法について学習することができます。また、学校周辺の遺跡について、まほろん職員が解説をする特別講義も人気メニューの 1 つです。一方の「出前講座」は、公民館などの生涯学習施設を対象とするもので、未就学児から高齢者まで様々な年齢の方々に受講いただいております。いずれも、開催校(館)のご希望に合わせて柔軟に対応することができますので、通常の授業や催しとは一味違った体験が可能です。

今年度は、「おでかけまほろん」を 44 校、「出前講座」を 6 施設で実施します(申込み終了)。なお、来年度の募集は、2 月頃に行う予定ですので、ぜひご応募ください。

まほろんイベント

「ゴールデンウィークまほろんまつり」の様子

5月2日（土）から6日（水）まで、「ゴールデンウィークまほろんまつり」が開催されました。

今年度は、「勾玉・管玉をつくろう」や「弓矢体験」など、期間中毎日行うメニューと、「わたあめづくり」や「紙かぶとづくり」など、日替わりメニューを設け、盛りだくさんのイベントとなりました。

3日（日）と5日（火）に開催した「お楽しみ抽選会」や、今回初めて行った「縄文土器ミニ展示コーナー」など、新たな内容も取り入れ、5日間の合計で1,800名を超える来場者をお迎えしました。



＜「紙かぶとをつくろう」の様子＞

体験学習

実技講座「家族で土器づくり（初級編）」

5月10日（日）に実施した講座には、14名の方が参加しました。

見本となる実物の土器からつくりたい形を選び、底の方から紐状にした粘土を積み上げて、形をつくっていきました。土器に文様を施す場面では、形づくりの時より表情がほぐれており、楽しみながら思い思いの文様をつけていました。

その後、土器は1か月間乾燥させ、6月14日（日）に野焼きを行いました。



＜「形づくり」の様子＞

ふくしまデスティネーションキャンペーン

特別メニューが目白押し

まほろんでは、4月1日～6月30日の期間に「ふくしまデスティネーションキャンペーン」として、花の写真展と



＜「まほろん花めぐり」の様子＞

体験の特別メニューを行いました。

写真展「まほろん花めぐり」では、4月から6月にかけて、まほろんの敷地内に自生する花の写真の展示を、プロムナードギャラリーで行いました。花の写真は、各月ごとに見ごろを迎える20種前後の花を選びました。

たとえば、4月には、マンサクやウグイスカグラ、5月には、ウワミズザクラやヤマグルマ、6月には、ウツギやガマズミなどの写真を展示し、来館者からは「まほろんでは、多くの花が見られることを知り

ました。」などの声が、多く聞かれました。

常時体験メニューには、有料のオリジナル缶バッジ、オリジナルキーホルダー、土偶ペンダントづくりを新たに組み入れました。

「オリジナル缶バッジをつくろう」では、自分でバッジをつくるため、その仕組みがわかります。

「オリジナルキーホルダーをつくろう」では、プラバンのデザインに色を塗り、オーブンで焼いてつくります。特に、プラバンの縮む瞬間に驚きます。

「土偶ペンダントをつくろう」では、お湯で柔らかくなるプラスチック粘土を土偶の型に入れ、紐を

取り付けてペンダントをつくります。

いずれも、短時間で誰にでも気軽にできる内容でしたので、とても好評でした。



＜オリジナルキーホルダーなど＞

企画展示案内

指定文化財展「奥州藤原氏の時代とふくしま一会津坂下町陣が峯城跡の謎一」

会期：平成27年7月25日（土）～9月27日（日）

会場：まほろん特別展示室（入場無料）

世界遺産「平泉」からの出土品と、多彩な貿易陶磁器を有する会津坂下町陣が峯城跡の県指定重要文化財とを対比しながら、奥州藤原氏の時代における福島の様相をさぐる企画展です。

「奥州藤原氏の時代」とは、12世紀（平安時代末期）頃、奥州藤原氏一族が、東北地方で権勢を振るった時代です。貴族の世から武者の世へ取って代わる、激動の時代でもあります。奥州藤原氏は、岩手県平泉に「平泉の館」（政庁・居館）を築き、拠点とし、三代にわたって約100年の栄華を誇りました。



この頃、福島県には、「平泉の館」にも匹敵するような城が築かれます。これが、陣が峯城跡です。発掘調査では、白磁水注をはじめとする貿易陶磁器・国産陶器や大量のかわらけ、二重堀など、他の居館・城跡とは一線を画すような遺構・遺物が見つかりました。しかし、これだけの調査成果がありながら、城主や築城の目的が不明で、未だ謎多い遺跡でもあります。

本展示では、陣が峯城跡と、「平泉の館」に推定されている国史跡柳之御所遺跡の資料を中心に、平泉町花立古窯跡出土渥美系陶器や、志羅山遺跡出土白磁水注（複製品）などを展示します。併せて、奥州藤原氏との関わりが深かったとされる、南奥武士団関連のパネル展示なども行います。

文化財講演会・文化財研修

文化財講演会「出土文字から古代のふくしまを描く」

6月6日（土）に、木簡や墨書土器といった出土文字資料研究の第一人者である平川南氏（人間文化研究機構理事）を講師にお迎えした、まほろん文化財講演会「出土文字から古代のふくしまを描く」を開催いたしました。

講演は、発掘調査の成果をもとに、奈良時代から平安時代のふくしま（石城国と石背国の建国、行方郡・行方団の設立等）や周辺地域（亘理郡・伊具郡等）の様相を解説されました。

この他、稲の種子札（品種を書いた木札）から、ごく最近まで栽培されていた品種と同じ名称の種子



がみられることも指摘されました。

当日は、あいにくの雨天だったにもかかわらず、県内外からたくさんの方がおいでになりました。

8・9月の文化財研修のご案内

8月5日（水）～7日（金）に、教職員等発掘調査体験研修を開催します。この研修は、実際の発掘調査を体験することで、歴史を復元する過程を学ぶとともに、遺跡や文化財に対する理解を深めていただくものです。授業や生涯学習に生かそうとお考えの方に最適な研修です。今年度は、県中地区の遺跡で実施する予定です。

9月26日（土）には、縄文時代以降の地域圏と地域間交流について、東北地方の南部と北部を比較する専門研修を予定しています。

どちらの研修も、ホームページでご確認いただけるほか、お電話やメールでもお問い合わせいただけます。多くの方のお申し込みを、お待ちしております。



古代の田畑だより

みなさんは、まほろんに田んぼや畑があるのは、ご存じですか？

野外展示「奈良時代の家」の前には、青々としたイネが育っています。1辺が2～3m四方の水田が4枚ほどの小さな田んぼです。この田んぼは、これまで発掘調査で見つかった弥生時代～古墳時代の田んぼの区画とほぼ同じくらいの大きさで作っています。

野外展示「奈良時代の家」の周囲の畑では、大豆や小豆、サトイモなども育てています。その他にも、実技講座「古代の染色にちょうせん」で使用するタ

ダイや、実技講座「カラムシから布をつくろう」で繊維を採取するカラムシなども育てています。

職員の汗と涙の栽培記録は、ホームページ『平成27年度古代の田畑栽培日記』をご覧ください。



＜「奈良時代の家」と田んぼ＞

シリーズ収蔵品紹介 20

たてのさわ おおがたはぐち 立ノ沢遺跡出土の大型羽口

羽口とは、金属を溶かす溶鉱炉ようこうろと炉の中に空気を送り込む送風装置を結ぶ管のことで、通常は粘土で作られています。

立ノ沢遺跡は、南相馬市鹿島区小池に所在し、常磐自動車道の建設に先立って発掘調査が実施されました。遺跡は丘陵の南向き斜面に立地しており、斜面の麓近くで、精錬鍛冶に関わる2基の鍛冶炉と周辺の作業場が検出されました。

立ノ沢遺跡出土羽口は、内径4cm程度で、福島県浜通り地方の製鉄関連遺跡で多数出土している古代（8世紀前葉～10世紀初頭）の羽口と変わりませんが、外径が3倍近くの14cmに達する大型品です。

外面には製作時に簀巻にした細板の痕跡が認められ、心棒の周りに粘土板を海苔巻のように巻いて製作されています。これは、きりたんぼのように心棒に粘土を貼付けて作る古代の羽口とは異なり、むしろ、阿武隈高地南西部で調査されている中近世の製鉄関連遺跡出土の大型羽口に近い製作方法です。ただし、中近世の大型羽口は内径が2cm程度であることから、内径に関しては古代に近い要素といえます。

立ノ沢遺跡出土羽口の年代は、調査時点では類例



＜立ノ沢遺跡出土の大型羽口＞

が乏しかったため、特定されていませんでしたが、近年、新地町すずまに所在する鈴山遺跡や南狼沢A遺跡みなみおいきわの調査で、同様の羽口が出土し、立ノ沢遺跡の鍛冶遺構の放射性炭素年代測定値である12世紀後半～13世紀前半と一致する年代が得られています。このことから、これらの大型羽口は、7月25日（土）から、まほろんで開催予定の指定文化財展「奥州藤原氏の時代とふくしま」で対象としている平安時代末～鎌倉時代初頭の所産と推定されます。

古代から中世に転換する時期に、阿武隈高地東縁部の丘陵地に分け入って鉄を作っていた人達は、奥州藤原氏側の者か、はたまた鎌倉幕府側の者か、興味は尽きません。（専門学芸員 笠井崇吉）

まほろんからのお知らせ

夏のまほろん

7月20日（月）～8月30日（日）まで、まほろんは休まず開館します！期間中は、弓矢体験などの特別体験メニューを用意しています。

また、7月26日（日）は、まほろんイベント「まほろん夏まつり」を開催します。新企画が盛りだくさんです。

夏休みは、まほろんで決まり！！

ご利用案内

- 開館時間** 9：30～17：00（入館は16：30まで）
- 休館日** 月曜日（月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただしGW・夏休み期間中は開館）、国民の祝日の翌日（土曜日・日曜日にあたる場合は開館）、年末年始（12月28日～1月3日）
- 入館料** 無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。）
- その他** 団体（20名以上）でご利用の場合は、事前にご予約ください。